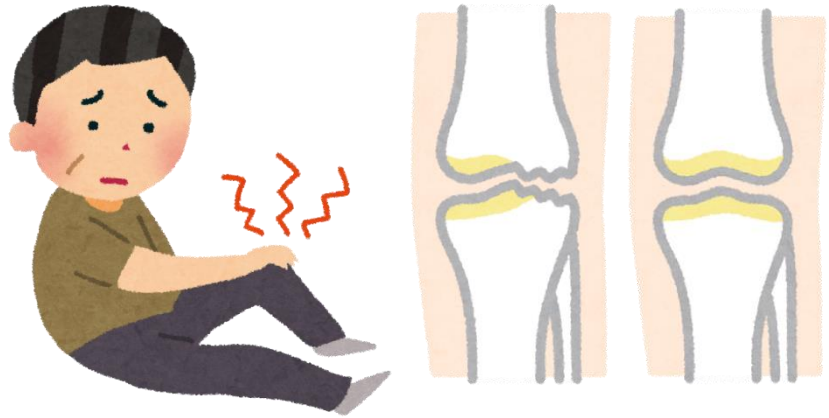


PRP療法、PRP-FD療法について

宇部協立病院では現在、変形性膝関節症にお悩みの方に対する新たな治療法として、PRP療法、PRP-FD療法の導入を検討しています。



【PRP療法とは】

血液に含まれる血小板は、患部に集まって、成長因子を放出することで、組織の修復を促し、痛みの原因である炎症を抑える働きを持ちます。この働きを利用するため、自身の血液を遠心分離にかけて、濃縮された血小板（PRP：多血小板血漿）を抽出、患部に注入する治療法がPRP療法です。PRP療法は変形性膝関節症や半月板損傷、靭帯損傷に効果が期待できる治療法です。痛みの抑制効果だけでなく、軟骨破壊抑止効果も期待できるほか、自身の血液成分だけを用いた治療であることから、拒絶反応やアレルギー反応などのリスクが少ないことが特長です。

【PRP-FD療法とは】

前述のPRPから血小板が分泌する成長因子のみを抽出、無細胞化、活性化させ、さらに凍結乾燥（フリーズドライ：FD）加工したものがPRP-FDです。加工前のPRPと比べて、約2倍の総量の成長因子が含まれており、これを患部に注入する治療法がPRP-FD療法です。PRP療法と比較して、損傷部位に対してより高い効果で炎症による痛みを抑え、治癒を促します。炎症を引き起こす細胞成分を除去しており、従来のPRPと比べて腫れや痛みがより少ないことも期待されます。

【PRP療法・PRP-FD療法の注意点】

- 約2割～3割の方に2～3日ほど注射した場所の痛みと腫れが出ることがあります。
- 確立されていない新しい治療法であるため、予期せぬ副作用等が出現する可能性があります。
- 保険適応とならない（自由診療となる）ため、治療が高額となります。
- 原則、変形性膝関節症に対して既に治療を受けておられる方については、本治療は受けられません。
- 治療効果には個人差があります。